

ゆらの通信

Vol.8

平成20年9月

2008年、今年の夏は水に感謝の日々でした。7月から8月下旬までまとまった雨がなく、由良野の山水は8月1日から26日まで断水。毎日3キロ下の湧き水まで水汲みの毎日でした。生活水のため、300リットルのタンクを一杯にするのに約45分。たくさん人が集まるときは最高4回。ほとんどの仕事は軽トラックする、とはいえ連日の晴天を見上げて祈るばかり。おいしい冷たい水が3キロ先で汲めることに、ただ感謝の日々でした。



7月21日 第23回こども森林博士号講座

今回は「陸貝をさがす」。まず、陸貝って何？



左の写真を見ていただくと良く分かります。昨年まで原木しいたけを栽培していたところで観察しました。少し小雨がありましたが、博士たちは陸貝にも目が慣れ、ついに6種類を発見。ゲストハウスに持ち帰り、拡大鏡で細かな違いを観察しました。なんとなく形は似てはいるけど、大きさや細かなところに明らかな違いを発見し、自然の創り出すデザインに見入ってしまいました。

7月・8月 養蚕



今年で4回目の養蚕になりました。次回は数を増やしてもいいかな・・・というところまで要領がつかめたところです。今年は、例年より梅雨明けが早くて気温の高い日が続きました。例年なら最後までじっくり桑を食べる5齢(最終段階の蚕幼虫)幼虫。暑さのためか活発に動き、2,3日早く糸を吐き始めました。繭の出来は約1割減。こんなところにも、気候に大きく左右される生きものの営みを感じました。

右2枚の写真は珍しい色つきの糸を吐く5種類の蚕です。野村シルク博物館からやって来ました。

原種に近い小さなお蚕さんで、糸を吐くタイミングをつかめないことや、繭も小さく糸の量が取れないことから現在は敬遠されているものですが、細くてきれいな糸が取れました。今年も卵を産ませ、来年の春、孵化に挑戦です。工房で取れた繭の一部を沖縄などに送っています。

工房天月修繕

築半世紀を越えると思われる、元は稚蚕所の宿舎。今は染織工房として使っています。



最大の課題であった床下の浸水、柱の痛みをクリアした去年。今年はすっかり朽ちていた南側の壁と、正面東側の壁を張り替えました。窓枠や、ドアも全てやり変えイメージもずいぶん変わりました。残るはあと外壁2面。・・・そして内装です。こんな中でも、細々と染織活動は続いています。これもやはり天候しだい、雨がなければ染めもできない・・・ではあります。養蚕をしたり糸を紡ぐのもこの工房でやっています。

ティピーを建てる



アメリカインディアンの伝統的な移動式住居・ティピー。

中は、ゆうに10人以上眠れるほどの広さ。ポールには森でできてきた檜の除伐材を使用しました。組み合わせさせた天井の間からは煙が出て行くようになっているので、中で焚き火も出来ます。夏休み中の子ども達がお泊りに挑戦しましたが、焚き火の消えた後、子ども達いわく「2000匹を越す」蚊の大群に襲われ、夜中に家に戻ってきた・・・ということも。夏休み中はずっと森の広場に立ち、その姿はなんだか不思議に勇壮でした。

7月19日・20日 ゆうき生協サマーキャンプ



松山市東方にある「愛媛有機農産生活共同組合」、略して(ゆうき生協)のサマーキャンプが今年是由良野の森で行われました。ゆうき生協は愛媛で唯一、生き物の命を守る事を掲げて安心安全な食べ物や、環境に負荷をかけない生活の為に品物を扱う生協です。由良野の森のゲストハウスに置いている洗剤や石鹸。しょうゆなどの調味料はこの生協のものです。ゆうき生協では定番の廃油石鹸。今回は廃油を使ったロウソク作りにも挑戦。夜はドラムサークル。

インディアン Tent を囲んで、ローソクと焚き火の灯りで打楽器を打ち鳴らすと気持ちは太古の部族会議のよう……。心地よく目覚めた高原の朝は、石水さん（地元久万高原町のネイチャーガイド）と森を歩き、自然の音を案内していただきました。総勢 100 名を越す老若男女。1泊2日の短い時間でしたが、久万高原の森の魅力をたっぷり感じて帰られました。

7月21日 第24回こども森林博士号講座

今回はヒメボタルの観察。由良野の森から出張し、車で一時間の小田深山で行いました。集合時間はまだ薄明るいので、溪谷の生き物観察。懐中電灯を手に、昼間は見るのが難しい生きものをたくさん観察できました。暗くなってくると、ヒメボタルの登場。小さな小さなヒメボタル。そばに咲いているホタルブクロに入れて、なんとも風流な夜の博士号講座を堪能しました。



8月7日 イラク帰還元米兵アッシュ・ウールソンさん、由良野に滞在



立命館大学にあるピースミュージアム館長 安齋育郎教授が代表を務めておられる k9mp の主催で、今年日本中をキャラバンした、アッシュ・ウールソンさん（26）。同行の皆さんも、四国上陸は初めてだったそうです。

前日の松山市公演の後、久万高原町でも昼・夜2回お話を聞かせていただきました。

大学に行く学費ローン返済のために米軍に入隊、州兵としてイラクに派遣されたアッシュさん。

自身が体験したアメリカ、そしてイラクのことを平和活動という形で伝えようとされています。

由良野滞在は短い時間でしたが、(peaceful) に眠れた久しぶりの夜を過ごせたとのこと。

その後44日間に及ぶ日本縦走を終え、帰国されました。

8月10日 第3回手打ちうどん体験



すっかり恒例になった、夏のうどん打ち体験。

松山市の「うどん坊」、中塚さんご夫婦に今年も来ていただきました。

これまでとはちょっと違い、今年は粉に水を入れ、ねるところから体験させていただきました。

もうこれで3回目・・・という子ども達もいて、「やっぱり経験は宝」と思わせる出来栄え。初めての年。あの団子のようなうどんを思い出して、大人も感動しながら頂きました。化学調味料を使わないおいしい出汁をたっぷりかけて、おなか一杯。ご馳走様でした。

8月14日 日本みつばちの巣から採蜜



「今年は取らずに待つよう・・・」。昨年森の巣箱にやって来た日本みつばち。蜜を取らずに過ごした去年の冬。その甲斐あってか、この春は分蜂して巣箱は2つになりました。巣箱からあふれて黒山になっていたところ、「そろそろ行くかー」と巣箱を開けてみると中には見事、層になった蜂の巣が並んでいました。甲斐義孝さんに手伝っていただき、初めての採蜜大成功でした。1年以上世話をしてくれて、たくさんの分蜂群を送り出したご褒美と思っています。蜜をとった後の蜂たちを、優しく扱い巣箱を掃除してあげると、元の巣箱に戻って元気に蜜を集め始めています。蜜を取って残った巣は、大なべで炊いて初めてのミツロウ作りにも挑戦しました。

8月31日 愛媛植物研究会 野外観察会



共生林担当の山本栄治さんも所属する愛媛植物研究会の皆さんが、野外観察会で由良野の森の来られました。愛媛の植物のエキスパート集団です。ゲストハウスから共生林の雑木山の間で、ゆうに250種を超える植物が観察されました。管理人も同行して、その様子を見学させていただきました。こんなに植物のことを熟知しているエキスパートな集団に「この人たち、とにかくすごい！」とただただ驚きの1時間でした。詳しい観察結果は後日教えてください。「次回は春に観察会を」という話もあがっています。その時は、皆さんにもご案内できればと考えています。

9月7日 第25回こども森林博士号講座



8月に開催を予定していた「川を覗いてみよう」は、湯水で開催地二名川の水が極端に少なく延期しました。そして今回も引き続き川に水が無かったため、急遽内容を変更。「カマキリのちがいを調べる」を開催しました。今回は大人もたくさん参加。みんなで虫網を振って、カマキリ以外の昆虫

もたくさん捕まえました。カマキリは3種の捕獲に成功。こども博士たちはカマキリをじっくり観察し、講師の山本栄治さんに違いをガイドしてもらいました。

9月7日 第4回ゆらの人間学講座 「でんでんむしの詞」

上浮穴郡で長年教職に奉じ、元久万町教育長を勤めておられた 古田隆氏 を講師にお迎えしました。専門は社会科であったそうですが、長い教員生活の中ずっと続けられた学級新聞や学校の通信。「継続は力なり」。楽しくて仕方なかったというその教員生活は信念に基づくものだと感じました。当たり前ようですが、その信念は生き方に反映する。そんなことを改めて考えたお話でした。農家の息子が歩んだその人生観は学ぶところ多く、勇気を頂きました。

サボってばかりいた中学生時代をもつ者としては、あの頃、もし・・・。

などと考えもしてみたのです。

参考資料はゆらの事務局にあります。PC環境のある方はホームページでもご覧いただけます。



事務局より

この春から夏にかけて、由良野の森に来られる方は、件数も人数も倍以上に増えてきています。地域行事や学校行事などで「せっかく来ていただいたのに留守」と言うことも多々ありました。

ほんの少し日本語の分かるニワトリが留守番していますが、今のところ役に立ちません。

ご連絡をいただければ、可能な限り対応させていただきたいと思っています。宜しく申し上げます。

由良野の森も整備されていくにつれて、夏場の草刈の仕事が増えてきました。来春はこの仕事を喜んで引き受けてくれそうな仲間を迎える予定です。そのため、春までに彼？彼女？の住む小屋を特別待遇で建設計画中です。うまくいけばいい堆肥も作ってくれるかもしれません。

この秋・冬の予定は別紙にて。

この秋もいろんな企画が出来ました。多くは、会員皆様のご縁によります。

公私ともお忙しい時節とは存じますが、時間の許す方はぜひご参加下さい。

当日のお手伝いをいただける方も歓迎です。

なお、里山の手入れのお手伝いはいつでも歓迎します。ご一報下さい。

ここ数年、成果の出ている野鳥の調査が10月中旬から共生林で始まります。

興味のある方は、事務局までご連絡下さい。